



6月 歩路だより



子どもたちは歩路での生活にすっかり慣れて、支援者にはっきりと意思表示する姿が多くみられるようになってきました。子どもたちの伝えようとする気持ちを受け止め、ことばを補いながら話をする事で相手に伝わる達成感や楽しさを感じることができるようになっています。

梅雨の時期は、細菌が繁殖しやすくなります。身の回りの清潔に関心を高め、自主的に手洗い、うがいなどができるようにしていきたいと思います。

6がつのよてい

げつ	か	すい	もく	きん
		1 おえかき	2 ねんどあそび	3 しょくいく
6 おんがくあそび	7 ひなんくんれん	8 うんどうあそび	9 すなあそび	10 おえかき
13 せいかつあそび	14 そとあそび	15 おんがくあそび	16 かだいあそび	17 うんどうあそび
20 かんしょくあそび	21 おえかき	22 かだいあそび	23 うんどうあそび	24 おんがくあそび
27 かだいあそび	28 すなあそび	29 さんぽ	30 せいかつあそび	

※活動内容は、諸事情により変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

《臨床発達心理士》松本先生：6月3日、8～10日、13～16日、21日、24日、28日

《言語聴覚士(ST)》二宮先生：6日、14日、22日、30日

《理学療法士(PT)》福山先生：7日、17日、23日、27日

○おしらせ○

6月11日(土)に歩路・セルク・トリア合同で父親懇親会が行われます。詳細につきましては先日配布した資料をご確認ください。

○おねがい○

持ち物には必ずご記名をお願いします。名前がない場合には、こちらで記入させていただきますので、よろしくお願いします。

職員通信 今月の担当は、チーフ 折田 李紗です。



晴れたり雨が降ったり、天気の変り変わりが多い時期ですね。室内や屋外に関係なく、子どもたちは汗ばみながらも日々色々な遊びを楽しんでいます。

歩路チーフ（たけ組）の折田李紗です。保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけすることありますが、今年度も宜しくお願い致します。今年は、色々な行事を取り入れ、歩路でしか経験できないことを子ども達にたくさん伝えていきたいです。

5月の食育では、サツマイモとピーマン、ミニトマトを植えました。子ども達は興味津々に苗を植える姿が見られました。成長の過程を子ども達に見てもらいたいので、水かけも当番を決めて毎日行っています。日々成長していく様子を子ども達はとても楽しみにしています。たくさん収穫できるように職員も頑張ってお育てしていきたいと思っております。

専門職通信 今回の担当は、理学療法士 福山章です。



食具の使い方とからだの発達

今回は食具（スプーンやフォーク、箸）の使い方についてからだの発達との関連も含め考えます。

手を使えるようになった赤ちゃんが飲食物を口に運ぶ際には、手で感触や温度などを確かめ、素材に応じた手の使い方を学習していきます。道具（食具）を使う前段階として手づかみ食べを経験することは目と手、そして口を協応させて働かせる発達段階として大切なことです。

食具を使う際には、椅子座位などで体幹が安定していることが前提になります。また食具の使い方は上肢をコントロールできる部位が肩から末梢に向けて発達していくにつれ下記のように変化していきます。

- ①上手握り（回内握り）：食具の柄の上から握る。手首は固定され、主に肩や肘でコントロール。
- ②下手握り（回外握り）：食具の柄の下から握る。手首のひねりをコントロールできるようになる。
- ③三指握り、鉛筆持ち：親指と人差し指、中指で握る。指を分離して使えるようになる。

幼児期の早い段階から食具を使わせようとしてもうまくいかない背景には、安定した座位や上肢の運動発達が伴っていないことが多いようです。クレーン車に例えると、車体が地面に固定されていない状態で細かな操作をするようなものであり、食器や食具を持って余ってしまうことで、いわゆる「遊び食べ」に見えることもあります。

近年、さまざまな種類の矯正箸・しつけ箸が市販されていますが、構造や力学的にも本来の箸とは異なるものが多いようです。本来の箸の使い方では、下の箸は薬指の指先側面にあて、親指の根元に挟んで固定させ動かさず、親指、人差し指、中指の3点で上の箸を持ってこれのみを動かしています。一方、矯正箸などでリングに指を入れて器具の先を開く方向に力を入れてしまう場合は、薬指や小指までもが開いてしまい誤った使い方を学んでしまいます。

手指の筋力などに問題がない場合は、三指握りで筆記具が比較的自由に使えるようになったら普通の箸の握りができる段階になったと判断できます。発達には個人差があるので、年齢だけで判断せず発達段階を丁寧に観ていく必要があります。